

【防災メモ】

～遠地地震・遠地津波について～

●遠地地震に関する情報

国外で発生した地震を「遠地地震」といい、この遠地地震に伴う津波を「遠地津波」と呼んでいます。

気象庁では、国外でマグニチュード7.0以上の地震が発生した場合や、著しい被害が発生した可能性のある地震を認知した場合などに、地震の発生から30分程度をめぐりに「遠地地震に関する情報」として、地震の発生時刻、発生場所（震源）およびその規模（マグニチュード）、日本や国外への津波の影響や観測状況について発表しています（図1）。

●遠くからも伝わる津波

一般に津波は、その発生源（波源）から遠ざかると影響は小さくなりますが、非常に大きな津波の場合は、はるか遠くまで伝わって大きな被害をもたらすことがあります。また、遠くからやってくる津波は、途中の海底地形や陸地の影響を受け反射・散乱を繰り返しながら複雑に変化し、津波が長時間継続するほか、複数の波が重なって著しく高い波となることもあります。さらに、近海で発生した津波と同様に、岬の先端やV字型の湾の奥などの特殊な地形では、波が集中して高くなるので特に注意が必要です。

●津波警報等の発表と避難行動

遠地地震の場合には、揺れを直接感じることはなく、また地震発生から津波が到達するまで時間的猶予があることもあり、遠地津波に対しては油断しがちです。過去の代表的な事例として、1960年（昭和35年）の「チリ地震津波」では、北海道太平洋沿岸で4mを超える津波の来襲により大きな被害が出ました（写真1）。このとき、津波の第1波は地震発生から約22時間半後に日本へ到達しています。

気象庁は、遠地津波に対しても日本沿岸での高さを判断して、津波が到達する数時間前を目安に津波警報等を発表します。津波警報等が発表された場合は、遠く離れた外国で発生した津波であっても決して油断せず、津波警報等が解除されるまで避難行動をとり続けてください。また、海水浴場や海岸付近で「津波フラッグ*」を見かけた場合も、速やかに避難してください。

※ 津波フラッグについて、前号の防災メモや気象庁ホームページ（以下URL）で解説しています。

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html



図1 遠地地震に関する情報の例（気象庁HP）

https://www.jma.go.jp/jp/quake/quake_foreign_index.html



写真1 1960年チリ地震での津波被害（浜中町榑町）
（気象庁職員撮影）